

令和5年度 第1回 龍ヶ崎市子ども・子育て会議 議事録

供 覧	部長	次長	課長	記録者	こども家庭課 豊嶋 良規	
				課長補佐	主査・係長	グループ員

件 名	令和5年度 第1回 龍ヶ崎市子ども・子育て会議
日 時	令和5年11月13日（月）午前10時～午後12時00分
場 所	龍ヶ崎市役所5階全員協議会室
出 席 者	<p>【委員】 米原立将委員、林敬子委員、大野美智子委員、伊藤悦子委員、片根浩二委員、水野保子委員、小林史人委員、飯塚拓也委員、上條静子委員、中村友則委員、森上由里委員</p> <p>【事務局】 福祉部 荒楨部長 中嶋次長 こども家庭課 蔭山課長、二野屏課長補佐、記録者</p> <p>【関係課】 保育課 海老原課長、脇島課長補佐</p>
傍 聴 者	0人
会議の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 3 事務局紹介 4 会長あいさつ 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「龍ヶ崎市第2期子ども・子育て支援事業計画」令和4年度実施状況について (2) あすなる保育園の認定こども園への移行について 6 その他 7 閉会

発言者	審議の内容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第1回龍ヶ崎市子ども・子育て会議を開会いたします。皆様こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。会議に先立ちまして、今年度より新たに委員になられた方々をご紹介します。</p> <p>龍ヶ崎市議会から伊藤悦子様。龍ヶ崎金融団から水戸信用金庫龍ヶ岡支店片根浩二様。龍ヶ崎市PTA連絡協議会から中村友則様。</p> <p>また、本日は欠席となりますが、龍ヶ崎市学校長会から長山小学校、五十嵐淳様。以上4名の委員の方々が変更となっております。どうぞよろしく願いたします。</p> <p>続きまして、本会議の事務局を務めます職員の紹介をさせていただきます。</p>
	<p><事務局自己紹介></p>
事務局	<p>それではまず初めに米原会長よりごあいさつをお願いいたします。</p>
米原会長	<p>流通経済大学の米原でございます。議事録を取るために録音しているので、こちらのマイクを使って欲しいということですので、ご協力よろしく願いたします。</p> <p>子どもをめぐる環境が、大幅に変わってきておりまして、小学校中学校の統廃合等あってですね。この先の龍ヶ崎市を考える。大事な会議としてこの子ども・子育て会議というのがありますので、ぜひ皆さんそれぞれのお立場の知見からご意見を願いたします。</p> <p>今後の元気な龍ヶ崎市の未来のために、お知恵を出していただき、議論をしていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしく願いたします。以上ですよろしく願いたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで本日の委員の出席者数を確認させていただきます。委員総数14名のうち、出席者が11名でございます。</p> <p>出席委員が過半数に達しておりますので、龍ヶ崎市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定によりまして、本会議が成立したことをご報告いたします。ご出席の皆様には、会議での発言の際のご注意を申し上げます。</p> <p>ご意見がある場合は挙手をしていただきまして、お手元のマイクのスイッチを入れてご発言いただきまして終了後はスイッチをお切りいただきますようお願いいたします。それではこれより米原会長に議事進行をお願いしたいと思います。</p> <p>米原会長よろしく願いたします。</p>
米原会長	<p>はい、それでは、皆さんのお手元にある次第に沿って進めさせていただきます。まず、こういった会議では必ず議事録署名人をお願いしておりますが、今回は、大野委員と伊藤委員をお願いしてよろしいでしょうか。</p> <p>(両委員承諾)</p> <p>それでは、議事録署名人をお願いいたします。議事の1番目、龍ヶ崎市第2期子ども・子育て支援事業計画の令和4年度実施状況について、事務局からご説明をお願いいたします。ご質問等については、この説明の後に一括してお尋ねするということにさせていただきたいと思います。事務局の説明は長くなるかもしれませんが、質問についてはですね、メモしていただき、後で願いたします。</p> <p>それでは事務局から願いたします。</p>

事務局	<p>令和4年度実施状況報告について <事務局説明>保育課：脇島 こども家庭課：豊嶋</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。 膨大な資料の中をピックアップしてですね、駆け足でのご説明をご報告をいただきましたので、なかなか私も追いつくのが大変でしたが、委員の皆さんから何かご質問、ございますでしょうか。</p>
飯塚委員	<p>はい。今の会長がおっしゃったように、すいません。聞いててね、何だかよくわからない。これは、言葉悪いけど、アリバイを作るために進めていると言われても仕方がないんじゃないですかね。もう少し、わかりやすくしていただかないと私はわかりません。龍ヶ崎市は、子ども・子育て会議の目的は何だと考えているのか。私は今の説明を聞いて、疑問に感じます。</p> <p>この会議は一体何のために集まって、何を話し合うのでしょうか。何か一方的に市が取り組んだものを聞いて、はいわかりましたっていうのが目的だとすれば、子ども・子育て会議の設置目的からは違っているように私は思います。</p> <p>今後、令和7年度からの第3期子ども・子育て支援事業計画が開始される。この龍ヶ崎市においても、その5年間の計画期間における、幼児期の教育・保育についての支援について、市町村は市民のニーズを踏まえた計画を策定することになっていますね。それで私が何を言いたいかっていうと、その計画はどこが策定するのか。私は、最終的に、この子ども・子育て会議が審議すると思っています。計画を策定する際に、この実施状況報告がどういうふうにかこれらに結びつくのか、わからないのです。</p> <p>例えば令和4年度に行った取り組み実績についてコメントがありますが、令和4年度における第2期子ども・子育て支援計画は全体的にどういうところができていて、どういうところができていなくて、龍ヶ崎市としてどのような課題があるのか。そこをはっきり確認することが、この議題の承認ではないかと思っておりますので、そういったところについてご説明をいただきたいと思っております。</p> <p>それから、障がい児のところですが、例えば4ページの④で、障がい児保育事業とありますが、ここでつぼみ園との連携が書かれてありますね。</p> <p>私どもの園も今、保健センターやつぼみ園とは積極的に連携は進めているのですが、つぼみ園で私が聞いているのは、このつぼみ園の利用者の半数以上は小学生以上だと聞いています。そうすることで、いわゆる就学前に、つぼみ園での様々な療育を受ける。何て言うかな、回数に制限がかかっているということを知っています。その辺がですね。これだと見えないんです。</p> <p>ですから、その点についてはちょっと指摘をさせていただきまして、そして、令和4年度の実施状況をまとめた結果、龍ヶ崎市としては、一体とどういうことだったのか。全体的な評価とか、課題。それを出していただけないと。何とも言えない。というところがございます。長くなってすいません。よろしくお願ひします。</p>
米原会長	<p>今2点いただきました。まずは先ほど事務局からご報告いただいたことについてはね、もちろん必要ということでやっていただいているのですけれども、どういう流れで、どういうことに繋がるっていうことを改めて、委員の皆さんにご説明いただききたいと思ひます。まずは、そこからお願いいたします。再確認というかね、背景と共有をできればと思ひます。</p>

	<p>今、飯塚委員からもありましたように、この子ども・子育て支援事業計画というのはもうどの自治体でも5年ごとに立てるようにこれは国で定められているものでございます。</p> <p>今は第2期、この第2期の途中ですが、実施状況を確認することで、この計画が計画通りにあるのかもしくはこの計画の中で項目立てしているものは、本当に実態に合っているのか、また見直す必要があるということで、実施状況を確認するということが必要となっております。委員の皆さんにお集まりいただくこの子ども・子育て会議でまずはこうですよって状況報告していただく。委員の皆さんはそれぞれのお立場ご専門がありますので、今の飯塚委員からもあったように障がい児のことについては実は足りてないのではないのか。学校の現場はこうだっというふうな、ご意見を出していただいて、市の子育て施策の根本の今後の事業計画、今後の子育て施策とこの子ども・子育て支援事業計画に生かしていく、というふうにしたいと、私はちょっと簡単にまとめさせていただいたのですけれども、概ね、間違っていないですね。事務局の方、はい。お願いいたします。</p>
事務局	<p>はい。</p> <p>今のご質問いただいた内容に正確に回答できるかどうかちょっとあれなのですけれども、まずこの子ども・子育て支援事業計画は子ども・子育て支援法で定められた法定計画になりまして、これは毎年度この計画期間に見込み量を計画の中で算出しています。まずその進捗につきまして、毎年度この最初の1回目の会議の時に実績を出ささせていただいて、委員の方からご意見いただきながら、次年度以降、どのようにやっていったら良いのだろう、なんていうところまで話していただくとより良い会議なるかなと考えております。</p> <p>次に市としての課題ですが、こういった各種事業それぞれすべて順調にいったるわけではございません。良い面もあれば課題もございまして。そういったものをまずはこの数的なところ、あとは簡単であります但し取り組み状況等をご覧になっていただきながら、委員の方から忌憚のないご意見いただきまして、事務局の方で反映していければというふうにご考えております。</p>
米原会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>とにかく、どんどんご意見出させていただくということで、加えて、その障がい児につきましては現状として、言い方は良くないのですがサービスの供給量って要はあのね、養育や相談が必要な子ども、それから保護者の希望ニーズに答えられてないのではないかとというようなご指摘がありましたけれどもこれについていかがでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。また、正確にお答えできるかどうかわかりませんが、現状、今の教育センターの方が担っている機能と、つぼみ園が担っている機能で若干連携が実際取れていない部分があります。</p> <p>小学校にあがる就学前の段階で、こういったお子さんのニーズを捉えて小学校と連携できれば良いのですが、そういった部分で連携が切れている部分も一部ありまして、そういったところで小学校の通常学級には入ったにも関わらず、実は特別支援が必要なお子さんじゃないかなということで、教育センターさんの方からつぼみ園の方に相談が来まして、実際受け入れるつぼみ園側の方の職員の体制ですとかそういったところで供給は過多な状況には実際なっているのは事実です。</p> <p>今後またそういったところの部分につきましては、これも市の課題なのですが、連携について、今、障がい福祉課の方も一生懸命教育センターの方と協</p>

	<p>議しながら、上手につなげていく、また、受けが合ったときには支援ができるような供給体制を作っていこうということで、今のセンター化に向けて、取り組んでおりますので、こども家庭課として障がい福祉課さんの方に同時になげていけるように、やっていければと考えております。課題は多い状況ですが、ご理解いただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
飯塚委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>私は別に、こども家庭課の皆さんを責めるために言っているのではないので。普段、本当にお世話になってますし、本当に良くなさっているということは、感謝しています。ただやっぱり、例えばね、忌憚のない意見をって言われてもこの状態だと私は意見が出せない。やはり、実際に現場で担当していらっしゃる事務局の方がこういったものをまとめたときに、こんな課題があると思いますよとか、総括的なことを言っていたら初めて、忌憚のない意見になるのではないのかなって。本当お忙しいのはわかっておりますので、すごく言いづらいですよ。ただ、やっぱりちょっと残念だけど、なぜこの子ども・子育て会議ができたか、というところではね。</p> <p>例えば、幼稚園は以前、県が窓口だった。でもそれが市に移管したことによって、私たちとしては、保育の現場が色んなものが市にしっかりと受けとめて話し合っていけるようになっていくのだからという期待ですね。そういったものがあるわけで。ですからそこはやはり、まずまとめた上で、市としてはこんな総括があるのですけれど、それについてはどうでしょうかというふうな、言っていただくということが大事かと思えます。</p> <p>それとおそらく第3期計画のための話を改めてするのか、或いは今日出た意見から作るのか、ちょっとそこわからないけれども、ごめんなさいねもうちょっとで終わりますね。</p> <p>実はつぼみ園が、八原保育所のそばにリースで建物建てましたよね。あのことと関連があると私は思っていて、馴馬小学校の跡地が教育センター、発達支援センターは八原保育所のそば。もう完全に建物分けちゃったわけですよ。そしたらもう当然、教育センターは主に不登校の子たちで目いっぱい、不登校の子の問題もすごくありますから。</p> <p>だから、教育センターはね、不登校の子の対応で手一杯、そうすると、小学生で発達に課題がある子に関してつぼみに持っていかざるを得ない。</p> <p>そうするとつぼみ園はそれを受け入れるので利用者がどんどん増えちゃって就学前の子たちの利用の機会が減ってしまうと。この悪循環はやっぱり指摘しておきたいし、本当はせっかく城南中学校の校舎が空いてるわけだから、あそこにつぼみ園があったので、教育センターも持っていけば一つの建物の中で、親は行ったり来たりしなくて済んだわけですよ。</p> <p>それを今ね、親が、八原保育所のそばと馴馬の教育センターと行ったり来たりしているわけですよ。</p> <p>これで本当に支援になるのかなということは私としては強く言って、また、今後の取組で改善しないと。保護者からしたら振り回されちゃってね、本当に自分たちが支えられてると思わないと思います。</p> <p>以上です。</p>
米原会長	<p>根深い問題でね。</p> <p>ただ、そもそも発達支援とか療育っていうものを、その学齢期をどういうふうと考えていくのか国でも実ははっきりしていません。</p> <p>先ほど、事務局からありましたけれども、そもそも、その障がいに関わることでなくとも、これまでこども家庭課が担当している保育幼児教育と教育委</p>

	<p>員会が担当している小学校以降での連携はなかなか取れていない。これは、別に龍ヶ崎市だけの問題ではないのですが、それをどうやって一緒にしていくのかっていう、国のほうでも架け橋プログラムというのを作ろうとしているわけですが、保護者に対してどのようなことができるのかっていうことを障がいに限ったことでなく、ご意見いただければと思います。他の委員の皆さんご意見いかがでしょうか。</p>
中村委員	<p>はい。中村と申します。よろしくお願いします。</p> <p>先ほどもこの会議ってどういうものなのですかというご指摘があった際に、5年単位で計画を立てていただいて、数字等を、実績として出しているというお話をいただいたのですけれども、正直そのようなかたちで進行していくのを、今回初めての会議に参加したということもありまして、わからないのですね。今ちょっとお話を聞きながら、そうなのだなと思って、勉強中です。過去の議事録など資料を確認しようと思って今ホームページを見していますが、会議自体が年1回しかないのかわからないのですが、資料が1回分しか見ることができない。昨年度も同じことをされているように見えます。</p> <p>そうなりますと、過去の経緯も把握することができず、忌憚ない意見を言った結果がどうなっているのかもわからない状態です。</p> <p>初めて参加した人はどうやってこの会議に合流すればいいのかわかりませんということがありまして、大まかPTAとしての問題かもしれないのですけれども、基本的にこの子育てネットワーク委員の担当者は1年単位で変わっている状況がありまして、そうすると、私たちの委員会から今こちらに出るように言われていますが、それ自体、正直意味がないのではないかと感じてしまうぐらいになっております。</p> <p>もしですね、次年度以降になるかと思いますが、どのような形で進行しているとかですね、初年度に合流される方にもう少し事前に情報をいただけると、初参加の人としては、やりやすくなるかなと思いました。資料についてというよりは、そういったことを思いつつ頑張ってますということをお伝えさせていただきます。</p>
米原会長	<p>ありがとうございます。実は我々の任期があと1ヶ月もないという中で開催頻度が少なくなっている等、色々事情があるかと思います。何か事務局からありますでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。ご質問いただきましてありがとうございました。今、確かにご指摘の通り、以前の会議録をご覧になられたということですが、こちらの会議のやり方が計画に基づいた見込み量に対する各担当課の実績報告に対して、委員の方からご意見を頂戴するというのが第1回会議のメインとして、議事の内容になっているところです。先ほどご指摘いただきました、初めて出席される委員の方に対しましての今後の対応につきましては、まず、この会議自体がどういう意図で何を目的に図っていくのかっていうところを、もう少し丁寧にやっていければと考えております。そのようなかたちで今後は進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>あとですね、現委員の皆様につきましては、今月いっぱい任期満了となりますが、これについては、議事の6のその他の項目で、次期計画の件と一緒に事務局の方からご提案、またご報告させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。実は第1期計画から実は私も関わらせていただいているのですが、以前はもっと開催回数があったのですよ。</p> <p>ただ、やはりちょっとコロナ禍のこともありまして、開催頻度がすごく少な</p>

	<p>なくなってしまったという現状です。それについては、今後の課題ということで、皆さんとね、協議できたということがよかったかと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>私は、事前に質問書を出しているのですが、その回答書が以前だと多分あったと思います。それで、必要なところを再度聞くみたいなかたちだったのですが、今回はちょっと項目も多いので、これから回答はしていただけますか。</p>
事務局	<p>まずご質問ありがとうございます。</p> <p>今日ですが、今回の会議の資料に基づいたご質問に対する回答を紙でご準備させていただいております。今回の議事が終わってから、いただいた質問に対する回答を口頭で行う予定でいしましたが、ペーパーを用意しておりますので今お配りさせていただきます。そちらをご覧くださいながら回答していければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
米原会長	<p>すみません、事務局には、私も質問しておりまして、まず口頭で質問いただき、事前に委員の方からあった質問については、その後どうですかというように進捗を考えておりました。でもありがとうございます。</p> <p>例えばちょうどね、これ話題になったこともございますので、まず委員の皆さんのお手元に住民基本台帳人口から出した年齢別の人口の資料があります。これを確認するというで龍ヶ崎市の今後を具体的に考えることができるのではないかとということで、これは市のホームページで四半期ごとぐらいに更新されるものですが、0歳児が335人で、7歳以降は5、600人ぐらいになっています。就学前の子どもの数はですね、年齢が小さければ小さいほど少なく少子化が進んでいると考えられます。とにかく中学3年生位から見ると、0歳は半分位しかいないような状況ですね。</p> <p>まずこの現状を共有してはどうかということで、事前に事務局にお伝えして、この資料を準備いただいております。</p>
飯塚委員	<p>これはグラフになっていると、取り組みやすいと思いますよ。</p>
米原会長	<p>ちょっと時間がなかったと思いますけれど、もしこれをこの会議で使うとしたら、よくある壺型のグラフなどがあると、かなりリアルにですね、龍ヶ崎市の子どもの数の変化っていうのが見ることができるとかと思います。</p> <p>ただ、この資料見るだけでもね、ちょうどもう本当に先ほど言いましたが、学齢期は500～700人いるけれどもでも、それより下が少なく、本当に大きな数字の違いがありますので、是非、みんなと一緒に考えようというね、日頃から意識していただくと良いと思います。</p> <p>伊藤委員からも事前に質問があったかと思います。回答が文書で書いてある部分については、説明等必要がないものもあると思います。特にここで出せるものがありましたら、いかがでしょうか。</p>
飯塚委員	<p>事前質問のNo5についてですが、一時預かり事業（幼稚園型）の数値がなぜ増えたのかという点ですが、こちらは茨城県が行っている私学助成（預かり保育推進事業）から市町村が窓口となる一時預かり事業（幼稚園型）に令和7年度までにすべての園が移行しなさいと指導が出ているというのが理由になります。以上です。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>このね、預かり保育とか一時預かりとかっていうのも保育園、幼稚園関係者は当たり前理解できますが、一般の方は、中々見えにくいところがあります。県からの指導で市が窓口となる違う制度のほうに移ったからこのように数字が膨らんで見えるということですね。ありがとうございます。</p>

	<p>色々変わって認定こども園でさえ中々、はっきりと理解されていない中、こども家庭庁ができて、本当に行政の方も色々混乱していてまだ、しっくりきてないところがあるかと思います。</p> <p>伊藤委員以外にどなたか何かございますか。</p>
森上委員	<p>はい、皆さんこんにちは。龍ヶ崎市民の森上と申します。娘が4歳で今も保育園に預かってもらっています。ただの市民でございます。</p> <p>私は質問として2つお伺いしたいなと思ったことがあります。1ページ目の①、基本的に待機児童はありませんよとおっしゃっていたと思いますが、これは4月1日付の人数だというふうにおっしゃっていたかなと思います。</p> <p>年度ごとに出ていると思いますが、年度を通しての結果はいかがだったのかなって、単純に気になったかなというところが1つと、あとですね、5ページにある、これは私の聞き間違いだったらちょっと大変申し訳ありませんが、この送迎ステーションのバスの送迎をやめるとおっしゃっていたのでしょうか。</p> <p>もし廃止ってことであれば、どういう話なのかなというふうに気になったというところ、以上の2点でございます。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>はい、事務局からご説明申し上げます。まず1ページから2ページ目、0歳児から5歳児、こちらの実績数は、4月1日時点の待機児童調査に合わせて書くために4月1日の数値を用いて待機児童がいませんよっていうことをお示ししています。令和4年度末時点における児童数は、0歳児が125名です。あと1、2歳児が、533名で、3歳から5歳児、1号認定が608名。2、3号認定が819名ということで推移しております。</p> <p>0歳児については、定員枠に対してだいぶ多い人数を預かっていますが、ただ、1、2歳児の定員枠が合わせて510名。これの120%までは弾力運用ということで、認めているところだったので、弾力運用の上限までいかないの、0歳児と1、2歳児を合わせた人数で調整させていただいたかたちです。</p> <p>弾力運用というのは、本来、利用定員をもってそこまで入所していただけてますが、やはり待機児童が出ないように各園職員配置などが足りている場合には、利用定員以上のお子さんを預かっていただくようお願いしているところなんです。</p> <p>次に駅前こどもステーションですね、こちらの方の送迎の部分の事業につきましては、来年度をもって廃止することといたしました。</p> <p>理由なのですが、市内の各園は市内各地に点在しておりますので、通園の平準化を図ろうといった目的と、あとは保護者の負担軽減、特に常磐線を利用して通勤される親御さんの負担軽減を図るということで進めてきた事業でございます。</p> <p>しかしながら利用者の状況を見ますと、市内の西部地区、佐貫や北竜台にお住まいの方の利用がほとんどとなっております。なおかつ各保育、幼児施設の延長保育の時間内にお子様をステーションに預けて、お仕事に行かれていらっしゃる方がほとんどになっておりました。こういったことから、本来の目的に沿った利用がされていないのではないかというようなことを検証して参りまして、今回の廃止となったわけです。現時点でステーションを利用しているお子さんについては、各園の延長保育をご利用いただくことで十分対応できるということで廃止を考えたところであります。</p>

森上委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうですね。私が、使っているわけではないのですが、ここに書いてあるとおり、利用者が増加しているってということと、大変満足していて好評を得ているって書いてありますので、廃止してしまうのはいかなものかなっていうふうに単純に思いました。</p> <p>今後は、園の方で延長保育などを利用いただくことで、納得いただけているのであれば仕方がないのかなと思いますが、そうですね、なんか残念かなって思いました。以上です。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>あと、年度途中は待機児童がいるのではないかということについては、事前質問にいただいた回答のNo.3 のところとも関わってきますのでこちらもご覧いただくとよろしいと思います。ただあれですね。後の議題にも関わってくるのですけれども、まだ、利用定員は必要であるということよろしいのですかね。0～5歳児の利用定員はあって、4月1日時点では待機児童がないから需要は満たしているけれど、年度途中での入園があるのでまだまだ利用定員を増やす必要があるという理解でよろしいですか。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>はい、コロナ禍がだいぶ落ち着いて、今お手元の資料の住民基本台帳の出生の数をご覧いただくと、加速的に子どもの生まれる数が減っているところです。ただ、女性の社会進出で保育の需要というのは増えていると考えていますので、その部分を良く検証して、今後必要であればその利用数確保、供給の確保ということで調整していきたいと思っております。</p>
米原会長	<p>いやいや、今ここで必要って言っとかないと、後で利用定員増やすって議案が出ているのに、それじゃ意味がないでしょうって言う話になるからちょっと事務局に振らせていただいているのですがいかがでしょうか。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>はい、必要量確保に向けてこちらも動いてまいります。</p>
保育課 海老原課長	<p>今ですね弾力運用をさせていただいている状況なので、これをですね本来の弾力運用じゃない姿になるべく戻していきたいというふうに考えております。その中でその弾力運用している部分を、その20%の部分を利用定員を上げるなどして、正しい数字に持っていきたいというところも考えているところであります。</p>
飯塚委員	<p>ごめんなさい。私は議事の(2)のところと言おうと思っていたのですが、それは申しわけないけど違うと思いますよ。</p> <p>つまり弾力運用、利用定員の2割っていうのは、実際利用定員だけでやっちゃうと、一時足りないとか、そのときの色々なものがあるから、利用定員の2割にしていたわけですね。弾力運用で2割まで認めていました、その分利用定員を増やしなさい。それはね、全くね、違う話になりますよ。だったら、龍ヶ崎市全体の幼児施設の定員数と利用者の需要の割合が抜けたままね。特定の園だけを見ていって、この園は利用定員の2割増えているから利用定員を増やしましょうっていうそちらの議論になっちゃうと利用定員に達してない園は、どうなるの。私立だから保護者だって機械的にA園が駄目だったからB園、B園が駄目だったらC園、C園がだめならD園でしょうって、そういうことにはならないわけですよ。私立なので、保護者もやっぱり行きたいところをちゃんと持ってらっしゃる。その辺が利用定員の2割だった。だから私はちょっと利用定員を龍ヶ崎市はこれから弾力運用を極力なくして利用定員どお</p>

	<p>りにしていきますって話をこの前、園長会議でお聞きしました。もう一度言いますが、利用定員の弾力運用部分は利用定員を増やすって、それはちょっとね、ちょっと違うと思いますよ。</p> <p>議事の(2)でそれはちょっと申し上げたかった。むしろ大事なことがこの子ども・子育て会議っていうのは、数の必要と龍ヶ崎市全体の状況の話なので、会長も今それで発言されているから、議事録のこともあるしね。私は、そこはちょっと違うと思いますよ。</p>
米原会長	<p>結構これは大きなことで、子ども・子育て会議の新事業計画もそうですが、そもそも国で作った時に量の確保と質の向上ということが望まれていて、今から10年前には龍ヶ崎は人口が減るってわかっていて、でも保育需要はある程度は見込めるだろうということでその両方、バランスを取りながら、利用者にとっても、保育をする施設にも、負担がないというかですね、子どもがいなくなって園をやめざるを得ないとかですね、本来だったらその近所の人が預けたかったのにやっぱり保護者にも負担になるっていうようなことがないように、この地域で話しましょうということですので、是非、ちょっとこれについては、それぞれ皆さんも、ご意見があるかと思うので出していただいて、それをね、施策につなげていただきたいと思いますがいかがでしょうか。これについては、はい。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>例えばなんですけれども、スポット的に利用定員が超えてしまったっていうことであれば、それは弾力運用ということになると思いますが。恒常的に超えている状況が続いている場合はやはり利用定員をきちんと変えて市内全体の供給が足りるかどうかということをご自分で見ていくと。どんどん利用定員の弾力運用を認めていくだけでは全体的な必要供給量がわからないのではないかと、事務局側では考えております。</p>
飯塚委員	<p>そこまでは私たちも了解したのですよ。</p> <p>ちょっとごめんなさい。先週、幼稚園と認定こども園の園長会を開いて、弾力運用の2割はもうなくしますよっていう文章が出たので、ただそれも文章が先に出ちゃったから。</p> <p>まず、やっぱり私たち施設の共通理解をちゃんともってからじゃないと困りますよねっていうことで、後付けで園長会を開いたのですよ。そこのところ今、脇島さんがおっしゃったところまではそうなのですよ。</p> <p>ただ、今ね、利用定員を2割超えたっていうところは利用定員を上げるっていうことが出てきてしまったから、それは違うんじゃないですかっていうことを私は申し上げています。うちの園はずっと利用定員の2割を超えているから、利用定員増やしますよって、これが出てくる、2番のながと夢さんがね。</p> <p>これはないでしょうっていうの、それが私、言いたかったところです。いや、私たちこれ知らないですよ。ごめんなさいね、会長。</p> <p>8月1日に実はながと夢さんは50人の2号、3号の利用定員を増やしています。これ私たち全く知らなくて今私もこれ見てびっくりしています。</p> <p>これがね、利用定員の弾力運用をなくしてこうですよってやられちゃうと、それもちょっと脇島さんのおっしゃることとまた違って来るわけだから。</p> <p>利用定員を守っていただくことで、市全体のバランスを取るということは、そうですね。でも、ながと夢さんの2号、3号合わせて50人増っていったらこれ保育園一個分を増やしてしまったのですよ。その前のトマト保育園もあるわけですよ。そうする、今年、今園児募集始まっていて、うちの園は、また、</p>

	<p>1号認定4人しか来てないですよ。</p> <p>もう本当に他の園も園児募集は非常に厳しくなっています。</p> <p>それなのに一方で保育園が増えたり、利用定員が増えるということはもう潰れるしかないよ。それでいいのっていうところの意見なのです。</p> <p>だから、脇島さんがおっしゃったところまでなら私たちもわかるということですよ。</p>
米原会長	<p>はい、子どもの数を3、4、5歳児の人口と要保育の利用率から考えると、利用定員を増やしたらあるところはたくさん来られるけれど、あるところには来なくなるっていう飽和状況にあるわけなので、そのことを龍ヶ崎市としてどう考えるのかですね。園児が集まっているところだけ生き伸びれば良いのかということにするのか、これまで子どもが多かったときには振り分けをしていたので、そういうことを引き続きやっていって、各地域で子どもたちがある程度まとまって過ごせるようにするのかということですね。そこについてはここで議論すべきことだと思いますので。ただ、制度上を認可申請があったときにそれを受け入れる受け入れないということは政策的判断なので、我々がそういったことやめましょうよっていうことはできますが、止めることはちょっと現状できない。</p> <p>市民の皆さんがきちんと声を上げて子どもの育ちをこういうふうにして考えていきたいと思いますという場ですので、是非是非、皆さんから意見いただきたいと思います。今、聞いてね、このことは初めて知った方もいらっしゃるかもしれません。感想でも結構ですので、どうでしょうかね。大野委員、やり取りの中で頷いていらっしゃることもあったかと思いますが、なかなか難しいとは思いますが。</p>
大野委員	<p>本当に難しい問題で、飯塚さんがおっしゃるとおり、集まるところに集まれば後はいいのかって、それはそうじゃないと思いますし、本当に難しい問題ですね。お子さんが増えているなら、問題ないと思いますが、この数字を見てどうなのかと。</p> <p>保育所を増やすが質はどうなのか、というところもあるでしょうし、大きな問題だと思います。</p> <p>私が今までのやりとりの中で、ちょっと心に残ったのは一言言わせてもらおうとしたら、お子さんは生まれて、保健センターか保健所、生まれた状態によって関わる場所が違ってきますよね。</p> <p>未熟児だったら保健所、健常児であれば保健センター、半年健診と色々調べていく中で、ちょっと発達に遅れがあるかなとこうだんだん見えてくる。ましてや第1子のお母さんであれば遅れなど、必死で夜泣きに堪えたりしていることで、そういうこと気がつかないところも専門の保健師さんが見てくださってご指摘くださるという期間です。1人のお子さんが成長していく段階で繋がっていく保健所、保健センター、もし障がいがあればそのあとにあるつぼみ園と、その流れが行くその連携はどうなんだろうかなと。</p> <p>すみません、つぼみ園を作りたいというか、あったほうが良いって言ったのは私たち親の会なんですね。場所がなく、建物を建てるお金もないということで、城南中の空き教室、本当は希望ではない。何で健常のお子さんが元気に遊んでいるときに悩みを持っている親が通わなきゃいけないのっていうかちょっと私の中でも、ちょっとそこらへんはありました。でも、場所がないだけだったら、先生を呼んで、場所がそこにあるのだったらそこでいいかということで、作っていただいたという経緯があるのです。</p>

	<p>私は本当に自分の私的なことを言うと、第3子が障がいを持って生まれました。その時に大学病院で障がいを認められたっていうか、私が強引に言ったのですが、それで初めて向き合うようになった。その時にこの小さな子を抱えてどこに行ったらいいのか。悩んだときに、その時、家庭には恵まれていたので遠くまで行けました。でもこれが地元にあったら、もっと回数を多く気楽にいけるだろうという気持ちを持った親の会が作った所なのです。そういう経緯をやっぱりつぼみ園の先生方とお会いしているときにはお伝えしています。</p> <p>なのでその本当に立ち上げた当初の気持ちを引き継いでいってもらえたらなど、今思っていて、お子さんは育っていくのに途中で切れることはない。本当にみんな繋がっているっていうところも、行政の方にもお願いしたい。連携が本当に一番必要だと、それをお伝えしたいなと思っています。私も仕事から飯塚先生にはとてもお世話になっていて、保母さんたちはとても良い方でとても連携を取りやすく、関わったお子さんたちはすくすくと育っております。本当に成長を楽しみに、関わらせていただいています。本当に現場からも連携ってとっても必要だと。お1人お1人のお子さんに対して色々な機関が関わっている。そこに関わっている1人としてやっぱりどの機関とも連携を取っていききたい。それが一人のお子さんを見守っていく市民というか、関係者として一番大切なことなのだろうと私はいつも心に秘めて、関わらせてもらっています。それはやっぱり行政の方も皆同じではないのか、大切なことなのではないのかなっていうのが、一番ちょっと今日のこの中で、感じたことです。すみません。答えにならなくて申しわけないのですが。</p>
米原会長	はい、ありがとうございます。
伊藤委員	今の問題に、ちょっと関わりますが、ながと夢認定こども園は、50人定員を増やしたことになりますよね。50人も定員を増やして施設の場所ってどうなのかなと思ひ、そのへんをお聞きしたいです。今の施設を増設したとか何かありますか？
保育課 脇島課長補佐	ながと夢認定こども園さんですが、子どもさんを受け入れるにあたって、補助金等を使わず、自費で増築工事を行って、お子さんを受け入れられる必要面積を確保しているような状況です。
伊藤委員	1つの園で215人。小さい子どもを215人預かるってことを、疑問に思うことだけ上げさせていただきます。
米原会長	この保育の量のことについてまさにこうね、この場で実施状況報告書が関係します。次の資料が話題になりましたが、ほかにいかがでしょうか。
林委員	すみません。ちょっと今のと関連がありますが、子どもさんの数を増やすっていうことは必要でしたら良いのでしょうか。保育士さんなどはどのようなかたちになっているのか、ちょっと心配になってしまいます。50人も増えたときに、保育士さんはどのぐらい必要なのでしょうか。
保育課 脇島課長補佐	はい、各年齢ごとの必要な保育士というのは決まっています。今現在ですが、ちょっとながと夢さんの職員の人数については確認してまいりませんでしたので申し訳ありません。今、2号3号認定とって保育の必要な子どもは、177名います。それに必要な保育士の数は確保できているような状況です。

	<p>国の基準で必要最低基準の保育士の数っていうのは必ず確保しなければいけませんっていうふうになっています。保育士が確保できないということは子どもを預かることができないということなので、177名預かれる基準は満たしているような状況です。</p>
米原会長	<p>はい。他はいかがでしょうか。</p>
林委員	<p>その保育士さんの人数については、確認はできているのでしょうか。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>はい、毎月子どもの数に対して必要な保育士が確保できているかっていうことは報告してもらっていて、その確認ができているので、子どもを預けているということになります。</p>
林委員	<p>定員を増員して、保育が始まってから保育士が不足しましたではちょっと大変だと思いますので、そうですね、そのへんをきちっとしていただきたいと思います。</p>
保育課 脇島課長補佐	<p>そこは必ず安全な保育が提供できるように、保育士の数は必ず確保するようにといいことで、当初、利用定員を上げるまで5人位の保育士が余っている状況がありましたので、その5人が保育に携われるように、お子さんの数も増やしていったというような経緯がございます</p>
林委員	<p>わかりました。</p>
米原会長	<p>他はよろしいでしょうか。ではですね、この実施状況報告書は、すごくたくさんになっておりますので、もしまた気づいた点がありましたら事務局にご連絡いただければと思います。</p> <p>これを準備する事務局はたいへんだったと思います。ありがとうございます。</p> <p>はい、それではですね、伊藤委員どうですか。質問への回答が来ていますが何か？</p>
伊藤委員	<p>はい。先ほどの保育士の数。国の基準は最低限のはずです。例えば、4、5歳児は30人に1人でしたっけ。それではだめで、龍ヶ崎市では25人位になっているのか。このところ、本当に子どもの数が減ってきていて残念なのですが、その分、保育の質の向上、そのほうに目を向けていただけるように指導はきちんとしていただきたいなっていうふうに思います。それとこの中で1つ、今、子どもたちにも言われているのが教室には冷房がありますが、体育の時間大変だから、体育館にも冷房を付けてほしいという声が多いので、いずれはではなくて、今やれば、一定程度の補助金が出るってことを言っていますので、早期に実現してほしいなってことだけ申し上げておきたいと思います。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。では議事の（1）は以上とさせていただきます。続きまして、議事の（2）でございます。あすなろ保育園の認定子ども園への移行についてですね保育課からのご説明をお願いいたします。</p>
保育課	<p>あすなろ保育園の認定子ども園への移行について <保育課説明>保育課：脇島</p>
米原会長	<p>はい。ありがとうございます。こちらについては、飯塚委員お願いいたします。</p>
飯塚委員	<p>すみません何回も発言して。実は、私、今県の審議員なのですよ。審議委員会に出たら、春風と太陽の話が出てきて目が点になりました。一体これは何な</p>

	<p>のですかっていうところで、驚きました。</p> <p>先ほど会長がここで意見は述べることはあるけれど、最終的に市長の同意書、これが必要になるので、その市長の同意書をこの委員が縛るものではないという趣旨で説明なさったということは、整理をしていただいてありがとうございます。ただ、ただですよ。やっぱり龍ヶ崎市としては、今後、こういったことがあるときには、市長が意見書を出す前の段階で、子ども・子育て会議に私としては、上げて欲しい。そう思います。そうじゃないと。なんかね、申し訳ないけど、バラバラで本当に良いのかなっていう疑問です。</p> <p>そもそも今これだけ子どもの数が減っていて、保育の質、高めましようっていうのが、国全体の方向なわけでしょう。その時にこれ法的拘束力がないこと分かった上で言いますよ。200人を超える幼児施設が、本当に望ましいのかどうか。つまり、ながと夢が悪いとかそういう言い方ではない。</p> <p>龍ヶ崎市としては、より良い子どもの育ちのためにはこういった幼児施設のあり方、こういった市の支援、あり方、それが望ましいよねっていうのを立てて、そして、だんだんそこに近づけていくっていうのがね、一番時代にもあっているし、それが本当の子育て支援にもなるのだなと思います。</p> <p>ですから、これも今更両方ともここで反対ですとか言えないわけでしょ。でも、その反対賛成以前に、やはりあらかじめ子ども・子育て会議が龍ヶ崎市の子どもの数の状況とかね、保護者の状況を見ながら、こういう方向でね、就学前の教育・保育を良くしていきましようっていうところをやっぱり守っていただく意味では、幼稚園、保育園、認定こども園に関わることについては、子ども・子育て会議で一旦は意見を聞きましようということは、私としては、お願いしたいと思います。これ本当、後付けでやっちゃうとね、弾力運用を守らなくて良かった、定員を2割り増しまで、沢山になるまで持って行って、これだけ子どもがいるから増やしてくださいって言えば良かったなみたいなことがやっぱり現場で起きますよ。これは本当に残念で、良い議論ではないから、やっぱりそこは考えてください。</p> <p>あとごめんなさい、もう1つだけ余計なこと言いますが、保育士の問題。実はですね、パートタイムで8時間勤務の人は、1人の常勤保育士の換算になります。どことは言いませんが、私が知っているある保育園の場合はね、定員が160人位あるのに、園長1人と常勤保育士が2人ですよ。あと全部パートです。それはやっぱり人件費削減ということなのですよ。でもそれで本当に保育の質が上がるかっていうのが、不適切な保育の後ろに隠れていることになるのです。そうするとやっぱりこれだけ人材難の状況であるときに、でかい保育園で必要な保育士数を揃えていくっていうところからは、どうしても保育の質の向上っていうのは、2番目になるから。</p> <p>やはり、そういった意味ではちょっと皆さんにも余計な話かもしれませんが、丁寧な話し合いをここでやっていただきたい。それだけお願いします。</p>
米原会長	これについて他の委員の方、はい。
伊藤委員	<p>今の飯塚さんの意見はもつともだと思います。小さい変更、大きい変更に限らず、実際、この子ども子育て会議には図っていただきたいです。</p> <p>あと、今出た問題でちょっと質問なのですが、これは公立保育所の定員を下げるということですか。なぜ90人に下げるのか理由をお聞きしたいと思います。</p>

<p>保育課 海老原課長</p>	<p>子どもが減っていることとですね、先ほどの利用定員を上げることを考えると少し矛盾があるかと思いますが、今後公募の数が減っていくことを想定して、市立保育所の定員を減らしていこうというような計画をしております。現在は定員144名ですが、実際入所しているのは、120名程度になりまして、その分ですね、その20名については緊急なものがあったりした場合の受け皿としているようなこともあります。今後、利用定員を徐々に減らして、民間の私立保育施設へ振り分けさせていくとか、そういったことも考えております。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>公立保育所ってやっぱり地域の保育園の核になるというか、民間だから悪いとかそういうことではなくて、公立はやっぱり保育の質をきちっとしていくという大きな役割があると思うのですよね。 その中での定員なわけだから、私は、その定員の削減については、反対します。</p>
<p>米原会長</p>	<p>はい。ご意見がありました。まずは、子どもの数が減っている中で、保育、幼児教育の利用定員をどうするのかっていうことについては子ども・子育て会議、こちらに事前にお諮りいただきたいということですね、それについては皆さんね、よろしいですかね。はい。 ちょっと公立保育所定員については担当課の説明でも矛盾しながらいうふうにおっしゃっています。片方で増やして、片方で減らすっていうね。やはりこの状況では、ちょっと説明しづらいと思います。144名の定員、確かに多いです。震災があって公立保育所を統合したから定員が大きいのですよね、八原はね。 それをどうするのかっていうことは今後の龍ヶ崎市の保育・幼児教育をどうするのかっていう中で考えていければと思いますので、是非、ただね、多分このままいくと事務局に色々なご意見が市民から上がるかと思しますので、まずはこちらで審議してそれに沿って進めるというかたちにしたほうが、より良いと思いますのでぜひご検討いただきたいと思います。そのためには今は年1回開催と少なかったのですが、子ども・子育て会議の委員の皆さんにはもう少しご参加いただいてご議論いただくというふうにしたいと思います。これは来期の話になってしまいますが、ぜひご協力をお願いいたします。他はいかがでしょうか。</p>
<p>飯塚委員</p>	<p>すみません。 その他のところで、先ほども言いましたが、第3期子ども・子育て支援事業計画の策定にあたっては、当然この子ども・子育て会議は開かれるということですね。ちょっとそこで幾つかお話ししたいのは、令和5年6月に閣議決定がありました。こども未来戦略方針において、1歳児は現行6人に1人の保育士だったのを5人に1人。それから4、5歳児はさっき出た30対1が、25対1というのが、閣議決定されていますね。 やっぱりこのことがこれからの子ども・子育て支援事業計画、やっぱりこことかみ合っただけでなくはいけませんし、それこそ逆に6対1から5対1になるということでは各園は利用定員を見直していくことになるので、そのことはちょっと覚えておいて受けとめていただきたいと思います。 それと、こども誰でも通園制度、これが6年度はまだ実現に向けた次のステップということでは7年か8年かというところになってくるのですが、このこども誰でも通園制度と、この子ども・子育て支援事業計画、これも絡んでくると思うのですよね。ただ今まで龍ヶ崎市がやっている良いものは残して、例えばですね、各園が親子登園やっていますよね。</p>

	<p>こども誰でも通園制度っていうのはどこの園へも行ってない子たちがターゲットになっていて、でもその3歳未満の子がね、週2回とか行って本当に安定して受けられるのっていったら、そういう子もいるかもしれないけれども、むしろ親が求めているは、どこの園にも行ってない子の親が不安で孤立していますっていうそういう図式なのですね。ちょっと資料がここにあります。子育ての不安というのは、どの園にも行ってないから不安なわけではなくて、やっぱり子どもが成長する限りどの園に行っても不安はあるけれど、その辺がこれ抜けちゃってこども誰でも通園制度から抜けているので、それをこの前も文科省の人に指摘してきましたが、龍ヶ崎市は親子の登園についても、あるいはさんさん館についても、たつのご利用助成金の対象にしているじゃないですか。あれってすごく実は大事なのです。</p> <p>だから、そういった意味ではこども誰でも通園制度と子ども・子育て支援事業計画っていうものを上手に組み合わせて、良いものを残し、あるいは良いものはこども誰でも通園制度に逆に入れちゃうようなかたちでちょっと検討をしていただきたいと思います。</p> <p>あともう1つこれで終わります。つぼみ園に関しては、今、新たにつぼみ園と保健センターとそれから協力できる幼児施設とで連携を始めています。</p> <p>今までは、つぼみ園というかたちでこの制度になっていましたが、就学前の幼児施設とつぼみ園との連携というものも第3次の計画に加えていただきたい。ということです。以上です。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>制度上、もうつぼみ園はこの龍ヶ崎市の児童発達支援センター、というふうになっていて、制度前からつぼみ園ってあるのですが、制度ができた後ハブになるっていうかですね、中核の施設になるということになっておりますので、改めて計画にね、載せるということですね。</p> <p>もう冒頭でもありましたけれども、実はこの子ども・子育て支援事業計画は、市町村子ども計画ってものを立てなきゃいけないって、その中に含まれるっていうことになっています。国においても、閣議決定はしたけれど、この先どうなるかわからないというかね、予算も伴うわけなので、色々不透明な中、部局の人は、前に進まなきゃいけないって大変だと思いますけれども、是非、知見を共有しながら、市民としてこの地域の子どもをどうやって健やかに育てるのかっていう議論を引き続きしていきたいと思います。</p> <p>はい、ほかいかがでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、もうそろそろお昼になりますね。この第1回子ども・子育て会議を閉じたいと思いますが、事務局の方にお返しして、はい。</p>
事務局	<p>はい。その他ということで事務局から2点ご連絡がございます。</p> <p>まず1点目ですが、現在の子ども・子育て会議の委員さんにつきましては今月の11月29日までが任期となっております。</p> <p>それ以降につきましては、市民公募が11月17日まで募集をかけておりますので、締め切り後選考をいたします。各所属の委員さんにつきましては、改めて委嘱状の交付をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>2点目ですが、会議の中で何度か話させていただいております、第3期の子ども・子育て支援事業計画が令和7年度から始まるに当たりまして、今年度にニーズ調査を行いまして、令和6年度策定の方に入って参ります。</p> <p>そのためのニーズ調査を行うに当たりまして、皆様のお手元には前回の平成31年2月に小学生の保護者と、就学前の児童の保護者に配ったアンケート</p>

	<p>をお配りしております。</p> <p>参考にこちら見ていただきまして、これに基づいて新たなニーズ調査を行うためのアンケートを作成します。</p> <p>先ほども会長からお話があったようにアンケートに乗せる項目ですとか、あとは龍ケ崎市独自の項目もあります。</p> <p>ニーズ調査を実施する業者がアールピーアイ栃木というところに決定いたしました。</p> <p>早速アンケートを作成するにあたりましては時間が限られております。</p> <p>12月8日がこのアンケートを印刷するための原稿の締め切りになっておりまして、今年度中にアンケートの集計や分析をすることになります。</p> <p>委員の皆様にもご意見を頂きながら進めたいところではありますが、前回のアンケートを参考に、ご意見がありましたら、事務局までご連絡頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。今配っていただいたのは前回、平成31年に市民に結構大規模な調査しました。小学生は1,000人、就学前の子どもは2000人を対象にしていましたこのときはね。調査をまた、次に行いますので、本来だったら、会議をきちんと開いてこの項目どうしようっていうふうに丁寧にやりたいのだけれどもなかなかもう時間的に余裕がない。ということで、会議が開けないかもしれないということで、まずは皆さんからこの項目について、こういう項目入れたほうがいいんじゃないか、この聞き方は答えにくいのではないかという意見をメール、ファックス等でも結構ですので事務局の方にお寄せいただけますでしょうか。</p>
飯塚委員	<p>今のことで、私からの願いは、つぼみ園、それから保健センター、それから教育センター、そこにむしろこのアンケートみてもらって、何を保護者に聞いたら良いのか聞いてもらうのも良いと思います。今、一番そこが最前線で色んな保護者とやりとりなさっていますから、そこから出してもらおうと良いかなと思います。</p>
米原会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ご参加の委員の皆さん、これはもう5年前に公開されているものですので、お近くの方ですね、お子さんお持ちの方に見てもらって、これってどうっていうふうなやりとりをしていただくこともよろしいかと思います。</p> <p>ただ、事務局からもありましたように、国でここは聞きなさいっていう設問がかなりを占めておりますので、変更が簡単にできるものはあまりないかもしれません。つけ加えたりですね、ここは龍ケ崎市として聞きたいというようなことが出てくるかもしれませんので、ぜひ皆さんのご意見をいただければと思います。今のご説明だとすると、今のご意見はできれば12月初めぐらいまでにとということでしょうか。</p>
事務局	<p>一応、業者のほうからは12月8日が原稿の締め切りと聞いております。</p> <p>事前にこの場ではっきりとは申し上げられないので、改めてそれに関しましては通知をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
米原会長	<p>はい、皆さんよろしく願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、はい、事務局にお返しいたします</p>

事務局	<p>米原会長、議事進行の方ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。</p> <p>それではこれで本日の会議の方を閉会したいと思います。大変お疲れ様でした。</p>
-----	--

上記については、令和5年11月13日に開催した、令和5年度第1回子ども・子育て会議の会議録に相違ないことを確認したので署名する。

令和 年 月 日

会 長 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____